

第68回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

主唱 / 法務省

あなたのまなざしで 再出発を 見守る社会へ



7月は“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間です。

第68回

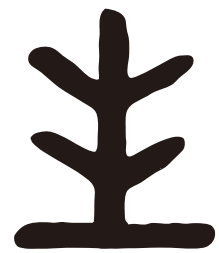
社会を明るくする運動

主唱 法務省

『犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ』

「社会を明るくする運動」

高砂地区推進委員会の組織



人はみな、
生かされて
生きてゆく。

- 高砂市
- 高砂市保護司会
- 高砂市教育委員会
- 高砂市社会福祉協議会
- 高砂市民生委員・児童委員協議会
- 高砂防犯協会
- 高砂交通安全協会
- 高砂市連合自治会
- 高砂市連合婦人会
- 高砂市老人クラブ連合会
- 高砂市青少年補導委員協議会
- 高砂市青少年健全育成連絡協議会
- 高砂商工会議所
- 高砂ロータリークラブ
- 高砂青松ロータリークラブ
- 高砂ライオンズクラブ
- (社) 高砂青年会議所

する運動月間です



明るい社会の実現をめざして



「社会を明るくする運動」
高砂地区推進委員会委員長

高砂市長 登 幸 人

夏木立の緑濃く、木漏れ日も輝く季節を迎えました。市民の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より市政各般に格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、毎年7月は『社会を明るくする運動』犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の「チカラ」の強化月間です。この運動は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする法務省主唱の全国的な運動です。また、「幸福（しあわせ）の黄色い羽根」をシンボルマークとし、本運動へのいっそうの理解と協力の輪を広げているところです。

罪を犯した人は、深い反省と償いを経て、立ち直ろうと決意し、新たな第一歩を踏み出します。しかしながら、現実には仕事や身寄りがなく孤立し、社会から取り残され、自分の居場所がないために犯罪を繰り返してしまう人も少なくありません。立ち直りを決意した人が、再び罪を犯すことがないよう、この運動の主体である推進委員会をはじめとする地域の保護司の方々や更生保護法人、更生保護女性会、BBS会など

のボランティアの方々、改善更生に協力いただいている事業主の方などがサポートに尽力しておられます。市民の皆様におかれましては、この運動月間を機に、犯罪や非行のない、安全で安心して暮らせる社会にするために何が求められているのか、自分に何ができるのか考え、そして行動につなげていただきたいと思います。そうした皆様一人ひとりの「おかえり」の温かい心が、何よりの励みになることでしょう。

本市におきましても、毎年「高砂市明るい安全安心まちづくり市民大会」を開催し、犯罪や非行、交通事故のない安全で安心して暮らせるまちづくりの啓発活動に取り組んでいるところです。

今後も引き続き、幅広く地域住民や関係者の協力と連携を得ながら、安全安心な生活と犯罪や非行からの立ち直りを支えていくことができ、地域づくりの努めてまいります。

最後になりましたが、高砂市保護司会をはじめご協賛いただいております関係団体の皆様には、日頃より更生保護事業の推進に多大なご尽力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

高砂保護区事件数 (平成30年6月1日現在)

神戸保護観察所

保護観察事件	31件
(内訳) 少年	20件
成人	11件
生活環境調整事件	29件
(内訳) 少年	1件
成人	28件

保護観察は、犯罪をした人又は非行のある少年が、実社会の中でその健全な一員として更生するように、国の責任において指導監督及び補導監督及び補導援護を行うもので、保護観察処分少年、少年院仮退院者、仮釈放者、保護観察付執行猶予者及び婦人補導員仮院者などがその対象となります。

生活環境調整は、刑事施設や少年院などの矯正施設にいる人の仮釈放・仮退院後の住居や就業先の居住環境を調査し、改善更生と社会復帰にふさわしい生活環境を整えることによって、再犯・再非行を防止するとともに円滑な社会復帰を目指すものです。



7月は社会を明るく

昨年度 兵庫県「社会を明るくする運動作文コンテスト」

小学生の部 佳作

『色々な普通と当たり前前』

北浜小学校 五年 出口 未 桜

私は、よく普通や当たり前前という言葉を使います。けれど、「いったい何が普通なのだろう。」と、ときどき疑問に思っています。そこで、「色々な普通と当たり前前」について考えました。

私のお兄ちゃんは、生まれた時から先天性という病気を持っています。体に色素をつくる力が無いので、髪の毛や肌の色が白いです。眼も黒ではなくて、灰色です。外に出る時は、一年中長袖、長ズボンを着て、帽子の後ろに日よけを付け、前にサングラスを付けます。日焼け止めも一年中ぬっています。私が小さいころからお兄ちゃんはそうしていたので、何も不思議に思いませんでした。それがお兄ちゃんの普通であり当たり前前です。

でも、普通はちがうと思います。夏になると、半袖や半ズボンを着るし、冬になったら日焼け止めをぬりません。それが当たり前前であって私達の普通なのだと思います。

では、見方を変えて、色々な人の色々な普通を考えてみました。

足が不自由な人は、車イスに乗って生活しています。目が見えない人は、盲導犬と一緒に

に生活したり、杖を使って駅や歩道の点字タイルを確認しながら移動しています。耳が聞こえない人や話せない人は、手話や筆談を使ってコミュニケーションを取っています。このような生活がその人達の普通であり当たり前前なのですが、私達とは少しちがうのでそれを分かる事がとてもむずかしいと思います。

だから、自分に身近な所で考えてみました。それは、教室です。私は視力が悪いので、メガネをかけています。メガネが無かったら黒板の文字がよく見えません。視力が良い人達は、後からでも黒板の文字が見えていると思います。このような事でもそれぞれの普通がちがうのです。

だから私はこう考えました。「一人ひとりみんなの普通や当たり前前はちがって当然、おたがいの普通を認め合おう。」

そうすれば、自分とちがった普通や当たり前前を持った人と同じ目線で生活ができて、仲良くなれると思います。そんな明るい社会や明るい教室をつくるのはむずかしいことかもしれませんが。一人ひとりが協力し、おたがいのちがった普通や当たり前前を理解し合わな

ければいけないからです。でも、それを分かり合えたら、今までは何か変わっていくと思います。

自分の普通、相手の普通を「差別」する事なく一緒に過ごす事ができ、一緒に笑いあえるような教室が学校中に広まれば悲しい顔をする子が少なくなっていく、私達の身近な小さな社会は明るくなります。



第68回
社会を明るくする運動
主催・法務省

声かけは
みんなの笑顔の
第一歩

犯罪や非行を防止し、
立ち直りを支える地域の子カラ

主催
協賛

第67回 「社会を明るくする運動」

開始式・総理大臣メッセージ伝達式

平成29年6月22日、ユーアイ帆
つとセンターにおいて開催された
第67回「社会を明るくする運動」
高砂市推進委員会で承認された今
年度の事業計画に基づき、7月3
日午前8時30分から市役所玄関に
おいて杜明運動開始式・総理大臣
メッセージ伝達式を執り行った。

始めに、高砂市保護司会吉屋会
長の開会あいさつの後、高砂市社
明運動推進委員長登高砂市長か
ら、運動開始にあたって「再犯率
の高い施設出所者を市民とともに
受け止めていく、そういう温かい
心が社会を明るくするものである
うとの思いのもと、全市を挙げて
この運動に取り組んでまいる所存

であり、そのことが再犯防止、ま
た安全で安心なまちづくりに必要
不可欠であると思えますので、保
護司をはじめ、推進委員会の皆様
による運動推進をよろしくお願
いしたい」とのあいさつがあった。



引き続き、新寶保護司会副会
長による安倍首相からのメッセー
ジ代読のあと、推進委員長登市長
へメッセージを伝達し、閉会し
た。



終了後、福祉部により手配して
いただいた公用車2台に女性保護
司が同乗し、東と西に分かれて市
内啓発へと出発し、お昼過ぎに終
了した。

なお、当日の参加者は、市長を
はじめ市職員、保護司、推進委員
会、後援団体関係者等57名であっ
た。

高砂市保護司会

新寶 能子、中尾 進、
山下 徳雄、新田八洲彦、
橘 純子、廣瀬 明正、
三好 由紀、梶原 好博、
藤井 正憲、宮本 幸弘、
大内 章、籠谷 稔、
志方 美之、正井 久義、
塩谷 重晴、曾根 眞正、
浜野 和樹、柴田 晃、
岸本 修、吉屋 省悟、
三枝 政明、古門 貞美、
大西眞美子、森本 孝義、
今竹 一史、石堂 求、
藤原 千秋、河野 道正、
柴田 ひな、大西 一弘、
川端 宏明、西川 賀久、
川本知代子、林 潤一

